



多様性が生み出した「アメリカ音楽」の魅力



「ロック」

長い歴史のなかで劇的な変化をとげてきた「アメリカのロック」は、さまざまなジャンルと世界的な人気アーティストたちを生み出してきました。

🇺🇸 「ロック」はカウンターカルチャー※の象徴に

1950年代末から衰退していった「ロックンロール」は、1960年代のビートルズ旋風をきっかけに「ロック」へと移行していきました。フォークシンガーだったボブ・ディランが1960年代半ばにエレクトリック・ギターを使用した楽曲を発表して「フォークロック」というジャンルが生まれ、1970年代はロックがさらに多様化していきました。アメリカのヒットチャートでは、イギリスのハードロックバンドの『レッド・ツェッペリン』や、ウェストコーストロックの代表的な存在である『イーグルス』などが人気となりました。1970年代半ばにはパンクロックが流行し、70年代後半には、『エアロスミス』や『キッス』、『クイーン』の人気が出始めました。
※カウンターカルチャーとは、1960年代のアメリカを中心に展開した若者を中心とする文化の総称であり、その言葉の背後には、既存の文化に対する抵抗という含意がある。

🇺🇸 産業化するロックと反発から生まれたロック

1980年代にはさらに「ロック」の人气が高くなり、アメリカ音楽はロック一強という時代になります。1980年代前半には、日本でも人气が高い『ボン・ジョヴィ』がブレイクし、アメリカン・ハードロックが注目されました。ハードロックの後継としてヘヴィ・メタルが生まれ、『ヴァン・ヘイレン』や『AC/DC』といったヘヴィ・メタルバンドのレコード売り上げは、80年代末のアメリカで40%にも及びました。1984年に、アメリカのロック界を代表する『ブルース・スプリングスティーン』が『ボーン・イン・ザ・U.S.A.』という大ヒットを出しました。ロックは人気の高まりとともに産業化し、その流れに抗うようにインディー・シーンからオルタナティブロックというジャンルが誕生します。1990年代を代表するロックバンド『ニルヴァーナ』は、オルタナティブロックの先駆者として知られています。



ロックのミュージシャン

ボン・ジョヴィ

1984年にデビューしたニュージャージー州出身の「ボン・ジョヴィ」は、全米を代表するハードロックバンドです。3rdアルバム『Slippery When Wet』が1000万枚を超える大ヒットを飛ばして以降、世界的な知名度を誇っています。グラミー賞では9回ノミネートされ1回受賞し、2018年には『ロックの殿堂』入りをしました。50カ国以上の国々で何千ものコンサートを開催し、アルバムの売上は全世界で1.3億枚を超えています。

ニルヴァーナ

「ニルヴァーナ」は、オルタナティブ・ロックやそのジャンルであるグランジのバンドとして1987年に結成されました。1993年にリリースした3rdアルバム『イン・ユーテロ』は、全米と全英のアルバム・チャートでトップを獲得し、ロック人気はヘヴィメタルからオルタナティブ・ロックへと移行しました。ダメージジーンズとスニーカーにTシャツといったスタイルで、ロックのファッションにも影響を及ぼし、当時の若者に大きなムーブメントを起こしました。



ロックの名曲

イツツ・マイ・ライフ

メロディアスで力強いサウンドと、ジョン・ボン・ジョヴィの特長的なヴォーカルで知られるボン・ジョヴィが2000年にリリースした7枚目のアルバム『クラッシュ』に収録された曲です。アメリカのロック人気オルタナティブロックへ移行した中で、ハードロックバンドとしての再ブレイクのきっかけとなり、世界的に評価され大ヒットした楽曲です。日本でもプロ野球選手の入場曲や、テレビ番組の挿入歌として親しまれてきました。

ボーン・イン・ザ・U.S.A.

アメリカのロック界を代表する重鎮「ブルース・スプリングスティーン」が1984年にリリースしたアルバム『ボーン・イン・ザ・U.S.A.』のタイトル曲です。アルバムは、ビルボードヒットチャートで全米トップを獲得し、84週間トップ10入りしました。ベトナム帰還兵の苦悩を題材にしたこの曲に限らず、ブルース・スプリングスティーンの曲には、社会的なテーマを持ちアメリカの労働者や若者の声を代弁するものが少なくありません。



アメリカロックの歴史的なイベント「ウッドストック・フェスティバル」

1969年8月15日から17日までの3日間、ニューヨークの郊外で開催された「ウッドストック・フェスティバル」は、歴史的な音楽イベントとして語り継がれています。ジミ・ヘンドリックスやジャニス・ジョプリン、グレイトル・デッド、サンタナなど30以上の人気アーティストが出演し、40万人の観客が愛と平和と音楽を謳歌しました。ベトナム戦争や公民権運動の激化など混沌としていたアメリカで、社会的かつ政治的な意味を持つロックがカウンターカルチャーの象徴となり、それを支持する若者で溢れた音楽イベントでした。

